

画面を見ながら3D内視鏡を操作する生徒



松波総合病院（笠松町田代）が22日、地元の笠松中学校の生徒を対象にしたメディカルセミナーを同町弥生町の同校で開いた。2年生約200人が実物の機器に触れ、医療の現場に親しみを深めた。

（山田俊介）

笠松中でメディカルセミナー

生徒が3D内視鏡操作



呼吸を補助する器具の使い方を学ぶ生徒

最新医療機器に興味津々

キャリア教育の一環で、医療に特化した体験学習を病院と中学校が連携して実施した。開催は昨年に続き2回目。病院のスタッフ約50人が訪れてさまざまな医療機器を紹介し、生徒に実際に触れてもらった。

腹腔鏡手術などで使用する3D内視鏡や、呼吸器を見るための内視鏡、人工的に呼吸を手助けするマスクなどが体育館に並んだ。生徒たちは職員のアドバイスを受けていた。



呼吸器用の内視鏡の操作を教わる生徒＝いずれも笠松町弥生町、笠松中学校